

科目名 (科目番号)	保健活動 ボランティア論 (時間割参照)	教員名	山本哲也	学科等	保健栄養	必修	履修年次	3
				曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
				授業形態	講義	オフィスアワー	火2(第一キャンパス・B325)	
授業概要	現在の医療・保健・福祉専門職の活動の範囲は施設や病院に限定されず、地域住民の健康の維持・増進や疾病や障害と共に生きる人々への支援等を目的とした活動など、地域での活躍が期待されている。また、地域においては、専門職との協働によりボランティアも活躍しており、地域に貢献する広い視野をもつことが必要となる。そこで本講義では、ボランティアの定義・理念といったボランティア活動に関する基礎的知識を学ぶとともに、自らボランティアとして活動するための知識と、専門職としてボランティアと協働するために必要な知識を身につける。							
目的・目標	目的:専門職としてボランティアとの協働が行えるようになる。 目標:ボランティアの定義・理念といったボランティア活動に関する基礎的知識を学ぶとともに、自らボランティアとして活動するための知識と、専門職としてボランティアと協働するために必要な知識を身につける。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	ボランティア活動とは	到達目標:授業内容等を理解するとともに、ボランティア活動に従事する人の考え方に触れる。 学習内容:『授業計画(シラバス)』を用いて授業内容を説明する。また、ボランティア活動従事者のボランティアに対する思いについて考える。					
	2	ボランタリズムとボランティア活動の定義・理念	到達目標:ボランティアの定義、性格等について理解する。 学習内容:ボランティアの定義、性格、ボランタリズムについて学習する。					
	3	ボランティア活動の歴史にみるボランタリズム(1)	到達目標:ボランティア活動従事者の活動を支えた意志について理解する。 学習内容:ボランティア活動の歴史を通じて、ボランティア活動を支える源泉について考える。					
	4	ボランティア活動の歴史にみるボランタリズム(2)	到達目標:ボランティア活動従事者の活動を支えた意志について理解する。 学習内容:ボランティア活動の歴史を通じて、ボランティア活動を支える源泉について考える。					
	5	ボランティア活動と幸福論(1)	到達目標:ブータンを例に、自らの幸福感について考え、認識を深める。 学習内容:幸福の国といわれるブータンの生活について学習する。					
	6	ボランティア活動と幸福論(2)	到達目標:デンマークを例に、自らの幸福感について考え、認識を深める。 学習内容:世界幸福度調査で上位に位置するデンマークの生活について学習する。					
	7	ボランティア活動と幸福論(3)	到達目標:全ての人の「幸せ」をめざす地域福祉におけるボランティアの役割を理解する。 学習内容:福祉の意味を知ると共に、地域福祉におけるボランティアの位置づけについて知る。					
	8	ボランティア活動の実際(1)	到達目標:地域において、様々なボランティアが活動していることを理解する。 学習内容:土浦市におけるボランティア活動の実際について学習する。					
	9	ボランティア活動の実際(2)	到達目標:ボランティアな活動である認知症サポーター養成講座を体験し、活動内容を知る〔外部講師(土浦市高齢福祉課等)〕。 学習内容:認知症サポーター養成講座を受講し、認知症サポーターに求められることを学ぶ。					
	10	ボランティア活動の実際(3)	到達目標:海外で活躍するボランティア活動について理解する。 学習内容:NGOや青年海外協力隊等で活躍するボランティア活動の実際について学ぶ。					
	11	ボランティア活動の実際(4)	到達目標:災害時におけるボランティア活動について知る。 学習内容:災害時におけるボランティア活動の役割、心構え等について学ぶ。					
	12	ボランティア活動の実際(5)	到達目標:保健活動に関連するボランティア活動を実施するため、必用な準備内容を理解する。 学習内容:保健活動に関連するボランティア活動の運営について学習する。					
	13	ボランティア活動の実際(6)	到達目標:保健活動に関連するボランティア活動を実施するため、必用な準備内容を理解する。 学習内容:保健活動に関連するボランティア活動の運営について学習する。					
	14	ボランティア活動の実際(7)	到達目標:保健活動に関連するボランティア活動を実施するため、必用な準備内容を理解する。 学習内容:保健活動に関連するボランティア活動の運営について学習する。					
	15	まとめ	到達目標:自らの考え、他者の考えも参考に、自分なりのボランティアとのかかわり方を検討する。 学習内容:本講義で得た知識、体験をもとに、ボランティアについて自分なりにまとめる。					
成績評価の方法・基準	期末試験（１００％）の結果により総合的に評価する（対面・オンライン共通）。							
教科書	特に指定しない							
参考図書	学生のためのボランティア論			岡本榮一他編		大阪ボランティア協会		
教員からのメッセージ	必要に応じて、授業内容の変更をすることがあります。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。							